

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.28
平成26年3月24日

感動的な卒業式一驚きのサプライズ演出で飾る！

3月20日(金)、65名の6年生が本校から巣立って行きました。厳粛な雰囲気の中、会場全体に響き渡る大きな返事、卒業証書を受け取る凛とした一人一人の表情、規律正しい立ち居振る舞いなど、とても立派な態度で小学校「最後の授業」を締めくくることができました。

交歓の部では、育ててくださったご家族、支えてくださった地域の皆様、お世話になった先生方への感謝の気持ちと6年間の思い出、そして、未来に向かっての旅立つ決意を心を込めて発表してくれました。

呼びかけの中で歌った「**巣立ちの歌**」、そして、最後に歌った「**旅立ちの日**」の合唱は、皆が心をひとつにして、気持ちを込めたまとまりのある、質の高い合唱だったと思います。

また、在校生の代表として出席した5年生も、最上級生としてのバトンを引き継ぐ自覚と桜小の伝統を引き継ぐ意志を、「**大空に迎える朝**」という合唱と呼びかけを通して力強く表すことができました。

閉式後、さらに驚きと感動が体育館中に巻き起こりました。それは、卒業生が自らの発案によるサプライズ企画で、1年間歌ってきた「**桜の葉**」を歌い始めたのです。6年生の担任はもちろん、ほとんどの職員が知らない、予定外の演出でした。「**感謝の気持ちをお伝えしたい**」という子どもたちの思いがまとまり、桜小の歴史で初めての卒業生による自主的な演出でした。卒業式の次第にはない驚きの演出に、会場の皆様から大きな拍手が起こりました。

日の出小学校との分離により、卒業生数は昨年度の約3分の1ほどに減少しましたが、第56回卒業式は、今までの卒業式に勝るとも劣らない合唱と呼びかけで、新生桜小学校の新しい歴史の一頁を感動で綴ることができたのではないかと思います。ありがとうございました。

第56回卒業式式辞より「一秒の言葉」

卒業式の式辞の最後に、現在漫画家として活躍する小泉吉宏氏の詩を卒業生に贈りました。人と人との関わりの中で大切にしていきたい大切な言葉です。中塚由美子教諭の朗読した「一秒の言葉」は、卒業生65名の心に深く刻まれることでしょう。

「はじめまして」この1秒ほどの短い言葉に、一生のときめきを感じることもある。/「ありがとう」この1秒ほどの短い言葉に、人のやさしさを知ることがある。/「がんばって」この1秒ほどの短い言葉に、勇気がよみがえってくることもある。/「おめでとう」この1秒ほどの短い言葉に、幸せにあふれることもある。/「ごめんなさい」この1秒ほどの短い言葉に、人の弱さを見ることがある。/「さようなら」この1秒ほどの短い言葉が、一生の別れになるときがある。/ 1秒に喜び、一秒に泣く。一所懸命、1秒。
(小泉吉宏)

